

平成26年度 全国学力・学習状況調査結果

平成26年10月7日

熊本県教育委員会

1 教科に関する調査結果概要（熊本県全体）

	小学校6年生			
	国語		算数	
	A	B	A	B
全国	72.9	55.5	78.1	58.2
熊本県	71.6	54.8	79.3	58.5

	中学校3年生			
	国語		数学	
	A	B	A	B
全国	79.4	51.0	67.4	59.8
熊本県	79.0	51.3	67.4	61.6

- 本県の教科に関する調査結果については、全国平均とほぼ同じ状況です。
- 小学校では、国語A Bで全国平均を下回りましたが、算数はA Bともに全国平均を上回っています。
- 中学校では、国語B及び数学A Bが全国平均以上であり、国語Aで全国平均をやや下回る状況です。
- 本県は、94%の問題で無解答率が全国平均より低く、各問題に粘り強く取り組む姿勢がうかがえます。

2 教科に関する調査結果概要（各管内）

平均正答率	小学校6年生				中学校3年生			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8
熊本県	71.6	54.8	79.3	58.5	79.0	51.3	67.4	61.6
宇城	74.3	53.9	79.8	59.4	77.7	50.1	68.3	61.8
玉名	69.3	55.7	78.9	57.6	76.5	48.5	62.8	57.5
菊池	75.3	57.0	80.7	61.3	78.2	49.9	65.8	60.8
阿蘇	67.6	53.3	79.2	55.9	79.1	52.0	68.9	63.0
上益城	71.3	53.4	77.6	56.8	76.8	47.9	62.3	56.5
八代	71.2	54.8	79.7	58.2	78.2	49.0	65.9	59.7
芦北	70.7	55.1	80.2	60.2	78.5	47.7	64.3	57.8
球磨	70.4	55.3	81.1	59.9	79.5	49.7	66.0	59.4
天草	69.8	55.9	79.7	59.0	78.8	51.5	68.1	62.6
山鹿市	70.8	58.1	80.2	60.6	81.5	53.3	69.3	62.8
熊本市	71.6	53.9	78.6	57.9	79.7	52.5	68.6	62.8

3 教科に関する調査結果概要（各管内）

全国平均正答率以上の管内

○小学校

- 国語 A : 2 管内（宇城，菊池）
- 国語 B : 4 管内（玉名，菊池，天草，山鹿市）
- 算数 A : 10 管内（宇城，玉名，菊池，阿蘇，八代，芦北，球磨，天草，山鹿市，熊本市）
- 算数 B : 7 管内（宇城，菊池，八代，芦北，球磨，天草，山鹿市）

○中学校

- 国語 A : 3 管内（球磨，山鹿市，熊本市）
- 国語 B : 4 管内（阿蘇，天草，山鹿市，熊本市）
- 数学 A : 5 管内（宇城，阿蘇，天草，山鹿市，熊本市）
- 数学 B : 6 管内（宇城，菊池，阿蘇，天草，山鹿市，熊本市）

4 児童生徒質問紙調査の結果概要（熊本県全体）

本県の児童生徒は、「休みの日の家庭学習時間（１時間以上）」「学校に行くのは楽しい」などの項目で、全国平均に比べて高い状況にあります。しかし、「失敗を恐れなくて挑戦する」「自分で計画を立てて勉強する」などの項目では、全国平均を下回っています。

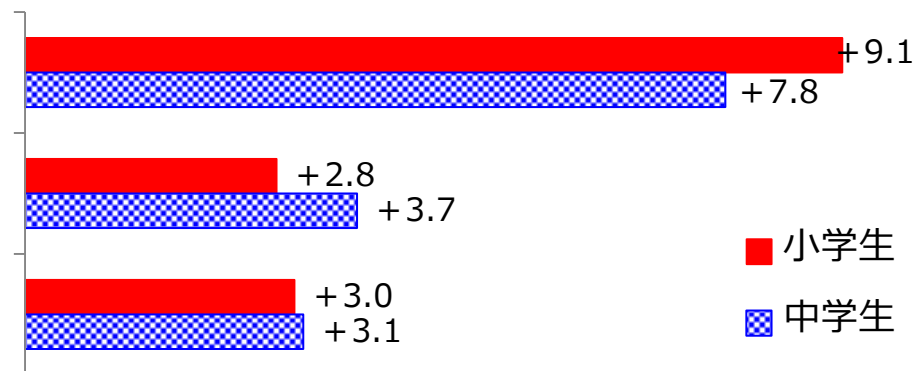
本県と全国との差が大きかった３項目（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合）

成 果

(1) 学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
（１時間以上）

(2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

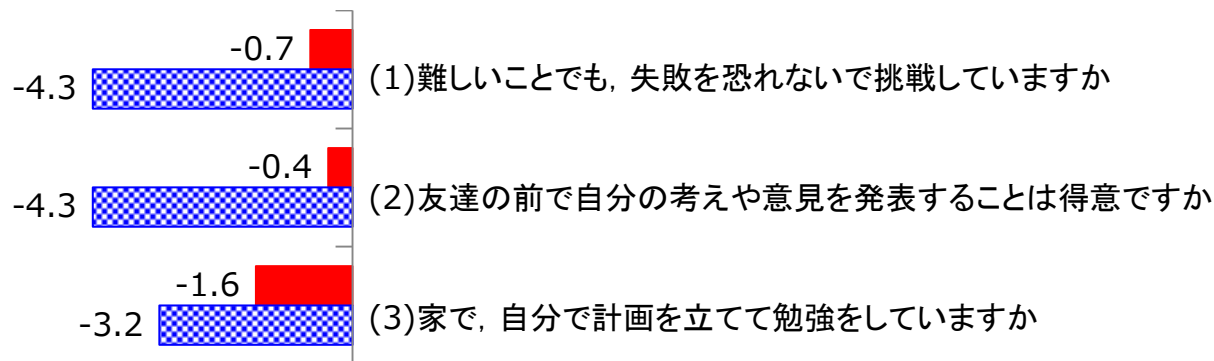
(3) 学校に行くのは楽しいと思いますか



課 題

■ 小学生

■ 中学生



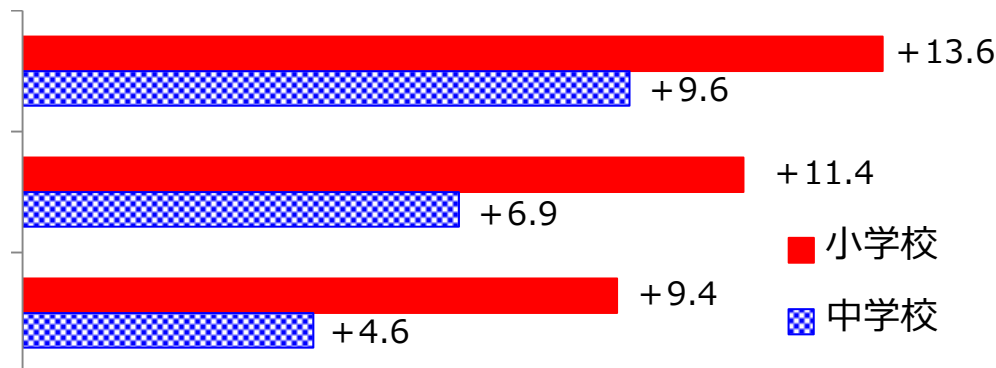
5 学校質問紙調査の結果概要（熊本県全体）

本県の小中学校は、「授業研究を伴う校内研修」「放課後を利用した補充的な学習サポート」などの項目で、全国平均に比べて実施回数が多い状況にあります。しかし、「『朝の読書』などの一斉読書の時間」「ボランティア等による授業サポート（補助）」などの項目では、全国平均を下回っています。

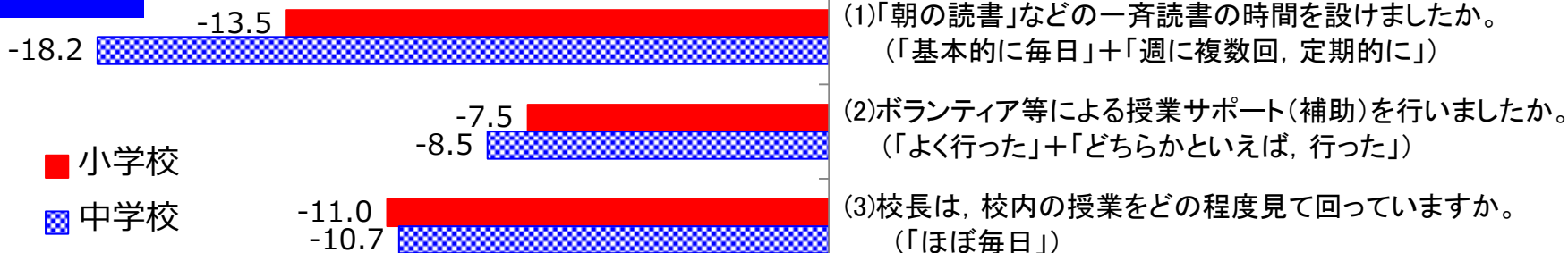
本県と全国との差が大きかった3項目（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した学校の割合）

成 果

- (1)授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか。
（「年間15回以上」＋「年間13回から14回」）
- (2)放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか。
（「週に4回以上」＋「週に2～3回」）
- (3)教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。
（「よく行った」＋「どちらかといえば、行った」）



課 題



1 小学校国語

- （１）調査結果の成果と課題
- （２）課題となった問題の分析
- （３）質問紙調査分析
- （４）指導改善のポイント

1 (1) 調査結果の成果と課題

成 果

「～たり, …たり」や, 「～なるならば」などの形を用いて, 適切な表現にして書くことはよくできています。

○関連する問題(A 6一・二)

二つの詩を比べて読み, 内容や表現の工夫を捉えたり, 自分の考えを書いたりすることはよくできています。

○関連する問題(B3一(1)・三)

小学校国語

課 題

「五十歩百歩」「百聞は一見にしかず」など, 故事成語の意味と使い方を理解することに課題があります。

●関連する問題(A2一・二)

説明的な文章を読み, 分かったことや疑問に思ったことを整理し, それらを関係付けながらまとめて書くことに課題があります。

●関連する問題(B2二)

物語文の情景描写の効果や, 新聞の投書における表現の仕方を捉えることに課題があります。

●関連する問題(A3・A4)

1 (2) ① 課題となった問題の分析

小学校国語①

課題となった問題

●正答率が低いA問題

- ・A2一 本県47.0%, 全国55.8%, (－8.8%)
- ・A2二 本県46.6%, 全国49.9%, (－3.3%)

二 「百聞は一見にしかず」

1 友達野村さんは、先生の説明のはじめの部分の話を聞いて、結論まで見通すことができるという。百聞は一見にしかずということができる人だ。

2 私は、夕日が美しいことで有名な海岸を訪れ、その美しさを自分の目で見て実感することができた。まさに百聞は一見にしかずだ。

3 私は、人からいろいろと細かく注意されることがいやだ。しかし、友達に百聞は一見にしかずだと助言されたので、そのことをよく考えてみようと思う。

一 「五十歩百歩」

1 姉と私は、残りのケーキをどちらが食べるのかでもめていた。すると、母が私たちに注意して、もめごとに関係のない弟に食べさせた。弟にとっては、五十歩百歩だ。

2 私たちの学級では、学年で行われる学級対抗ドッジボール大会での優勝をめざして、ほかの学級よりもずっと前から練習を始めた。だから、優勝できたのは、五十歩百歩だ。

3 山口さんと川島さんが、学校で出された宿題を五回忘れたのか、六回忘れたのかで言い争っていた。このようなことで言い争う二人は、五十歩百歩だ。

2 次の一と二の故事成語の使い方として最もふさわしいものを、1から3までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

課題

「五十歩百歩」「百聞は一見にしかず」など、故事成語の意味と使い方を理解することに課題があります。

【A2二解答類型】

1(26.7%), **2(46.6%)**, 3(26.4%)
無解答(0.3%)

指導のポイント

先人の知恵や教訓、機知に触れることができるように、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなど、計画的に指導することが大切です。

例えば、三領域の言語活動と関連させて、出来事の説明や調査の報告などを行う際に、故事成語やことわざ、慣用句を使うという条件をもとに話す指導が考えられます。

また、朝の会や帰りの会など日常的な活動で、慣用句を使った1分間スピーチやクイズに取り組むなど、継続した指導が必要です。

1 (2) ② 課題となった問題の分析

小学校国語②

課題となった問題

●正答率が最も低いB問題

・B 2二

・本県24.4% 全国26.9%, (-2.5%)

課題

説明的な文章を読み、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くことに課題があります。

【解答類型】

3つの条件をすべて満たしているもの(24.4%)

2つの条件を満たしているもの(1.7%)

1つの条件を満たしているもの(25.0%)

上記以外の解答(43.5%), 無解答(5.4%)

指導のポイント

「二文を一文にして書くこと」の具体的な指導として、接続語「また」や「しかし」などを、どのような言葉に置き換えることができるか挙げさせ、文を書かせる指導が考えられます。

「『例えば』という言葉を使って書くこと」の具体的な指導として、参考となる文章から具体例が示されている箇所を確認させ、「例えば」を使って書くことに慣れさせる指導が大切です。

【参考】

平成22年度調査問題【小学校】国語B4

平成25年度調査問題【小学校】国語B2三

【原田さんのまとめ】

ぼくが、ぎ間に思った「A」

【新たな疑問】

①鼻の短い動物の鼻の役目は？

・カバやフタは、鼻を使って何が出来るのか。

②鼻は、今よりも短かったが、体が大型化したら、口が地面からはなれていったらどうなるか。

③鼻は、今よりも短かったが、体が大型化したら、口が地面からはなれていったらどうなるか。

④鼻は、今よりも短かったが、体が大型化したら、口が地面からはなれていったらどうなるか。

⑤鼻は、今よりも短かったが、体が大型化したら、口が地面からはなれていったらどうなるか。

【原田さんの疑問】

A

原田さん

【野口さんのまとめ】

わたしが、ぎ間に思った「ソウの長い鼻は、においを感じ取る事が出来るのか」ということについて、次のことが分かった。

ソウの鼻は、長いからといって、においを感じ取る事が出来ない。二、三キロメートル先のおいを感じ取る事が出来る。二、三キロメートル先のおいを感じ取る事が出来る。

【新たな疑問】

①においを感じ取る事にすぐれた動物は、どのような動物か？

・スズメは、どれくらい先のにおいを感じ取るのか。

②すぐれた鼻を使うことで、

③すぐれた鼻を使うことで、

④すぐれた鼻を使うことで、

⑤すぐれた鼻を使うことで、

【野口さんの疑問】

ソウの長い鼻は、においを感じ取る事が出来るのか。

野口さん

二 原田さんと野口さんは、書いたふせんを整理しながら「疑問」に対するまとめを書いていきます。

【野口さんのまとめ】 B の中には、どのような内容が入ると考えられますか。小さくわいて内容を、「原田さんのまとめ」の書き方を参考にし、次の条件に合せて書きましょう。

(条件)

○「野口さんのふせん」①と②の両方の内容を使って書くこと。

○「野口さんのふせん」③の内容については、「科学読み物」の部「二文を一文にして書くこと」また、④の内容については、「例えば」という言葉を使って書くこと。

○書き出した言葉に続けて、百字以上、百二十字以内まとめて書くこと。なお、書き出した言葉は字数にふくむ。

1 (2) ③ 課題となった問題の分析

小学校国語③

課題となった問題

●A・B問題を通して全国平均と比べて差が大きい問題

- ・A3
- ・本県53.2%, 全国58.7%, (－5.5%)

- 1 良太の顔の表情
- 2 良太の心の中の声
- 3 良太の周りの風景
- 4 良太の行動

二人の会話の様子

南田 ―― 部では、良太の気持ちを「さびしい」と表現したけど、「さびしい」という言葉を使わずに、うまく表現できないかな。

橋本 それならば、その気持ちを

南田 それはいいね。(しばらく考える)

では、「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうか。

橋本 そうだね。そのように書きかえると、「さびしい」という言葉を使わなくても、読み手に良太の気持ちや様子を想像させることができると思うよ。

〓 (会話が続く) 〓

【物語の一部】

良太は、小学三年生の男の子。春休みに、大きな町から引っ越してきました。四月、引っ越した先の学校に通い始めましたが、はずかしがり屋の良太は同じ学級の人に声をかけることができませんでした。

おだやかな風がふく、ある日のことです。学校から家に帰った良太は、近くの公園に出かけました。その公園は、学級のみんながよく遊んでいる場所です。学級の誰かと会って話をしたくて、そこでじっと待つことになりました。しかし、公園にはだれも来ません。

良太は、さびしい気持ちでいっぱいになりました。

「こんなところなんてきらいだ。友達なんていないや。」

と、小さな声でつぶやきました。

〓 (物語が続く) 〓

3 次は、南田さんが想像したことをもとにして書いている「物語の一部」です。南田さんは、橋本さんから助言をもらっています。あとの「二人の会話の様子」の〓の中に入る内容として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

課題

物語文の情景描写を捉えることに課題があります。

【解答類型】

1(19.7%), 2(15.3%), **3(53.2%)**,
4(11.7%)
無解答(0.1%)

指導のポイント

物語などの文学的な文章を読む授業において、描写の工夫(行動や表情、会話(内言)、風景など)の効果を理解できるように指導することが大切です。

その際、登場人物の心情などについて、直接的に描写されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導しましょう。

【参考】

平成24年度調査問題【小学校】国語A6

1 (3) 小学校国語に関する質問紙調査分析

質問紙（小学校国語に関する内容）から見えてきたこと

児童質問紙から

多くの児童が、記述式問題の解答を最後まで書こうと努力しています。一方、話の組み立てを工夫して発表したり、考えの理由が分かるように書いたりすることは、全国平均と比べて低い傾向にあります。

- 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか
「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」
 - ・ 本県76.9%, 全国76.1%, (+0.8)
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか
「当てはまる」
 - ・ 本県17.3%, 全国19.0%, (-1.7)
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか
「当てはまる」
 - ・ 本県26.9%, 全国29.0%, (-2.1)

学校質問紙から

補充的な学習の実施状況は、高い傾向にあります。一方、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業や、基礎的・基本的な事項を定着させる授業の実施状況は、全国平均と比べて低い傾向にあります。

- 国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県16.5%, 全国14.1%, (+2.4)
- 国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県19.5%, 全国20.7%, (-1.2)
- 国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県46.4%, 全国51.0%, (-4.6)

1 (4) ① 授業づくりに当たって (小学校国語)

1 指導事項等を確実に身に付けるための単元を貫く言語活動を充実させましょう。

- ・「身に付けたい力」「言語活動」「教材文」の有機的な関連付けを図ること。
- ・児童の主体的な思考・判断が生かされる言語活動を設定すること。
- ・思考力，判断力，表現力等を高めるための発問を工夫すること。

2 漢字，語句，故事成語の意味や使い方の定義を確実に習得させましょう。

1 (4) ② 授業内容における改善のポイント (小学校国語)

学力調査結果分析から見える課題の解決に向けた研究を
充実させましょう。

- 各教科等との関連を図りながら、話し合い活動で、一人一人が司会の役割を経験する機会を設けること。
- 書くことの授業において、直接的に描写されているものだけでなく暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導すること。
- 文学的文章では、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながら読むように指導すること。
- 先人の知恵や教訓、機知に触れることができるように指導し、実生活の中で意図的に活用する機会を設けること。

2 小学校算数

- （１）調査結果の成果と課題
- （２）課題となった問題の分析
- （３）質問紙調査分析
- （４）指導改善のポイント

2 (1) 調査結果の成果と課題

成 果

基本的な四則の計算をすることはよくできています。

○関連する問題

A1(1), (2), (3), (4), (5), (6), A8

円周の長さを求めたり, 示された直方体の体積を求めたりするなど, 「量と測定」領域における基本的な技能については, よくできています。

○関連する問題

A5(1), (2)

算数

課 題

作図をする際に用いられる, 図形の性質を判断することに課題があります。

●関連する問題

・A6

示された場面と図を関連付けて式を考えると, 乗法や除法の意味を理解することに課題があります。

●関連する問題

・A2(1)(2) ・H24 A3(1)(2)

他者に説明をする場面で, 自らの考えの根拠となる図を選択したり, その理由を適切に記述したりすることに課題があります。

●関連する問題

・図の選択 B2(3), B3(2), B5(2)

・記述 B3(3)

2 (2) ① 課題となった問題の分析

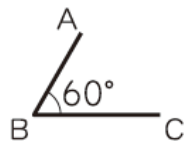
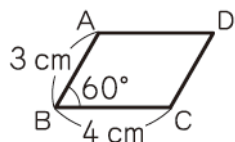
算数①

課題となった問題

●正答率が最も低いA問題

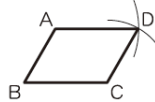
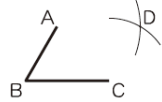
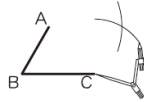
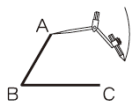
・A6 本県52.4%, 全国52.0%, (+0.4%)

下の平行四辺形ABCDをかきます。まず、辺ABと辺BCをかきました。



次に、下のかき方で平行四辺形をかきます。

- ① 点Aを中心として、半径4 cm (辺BCの長さ) の円の一部をかく。
② 点Cを中心として、半径3 cm (辺ABの長さ) の円の一部をかく。
③ 交わった点をDとする。
④ 点Aと点D、点Cと点Dを直線で結ぶ。



左のコンパスを使ったかき方は、平行四辺形のどの特ちょうを使ってかいていますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号をかきましょう。

平行四辺形は

- 1 向かい合っている辺が平行である。
- 2 向かい合っている辺の長さが等しい。
- 3 向かい合っている角の大きさが等しい。
- 4 2本の対角線がそれぞれ真ん中の点で交わる。

課題

コンパスを使って平行四辺形を作図する際に、図形のどの性質を使うのか判断することに課題があります。

○「2」が選択できた児童は52.4%

【解答類型】

○「1」を選択した児童は23.6%

コンパスを使った操作の意味が理解できておらず、平行四辺形の性質を選んだことが考えられます。

指導のポイント

図形の作図の指導においては、単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質に基づいているのかを考え、作図できるようにすることが大切です。

指導に当たっては、平行四辺形の作図においてコンパスを用いる理由を話し合う活動を位置付けることが考えられます。

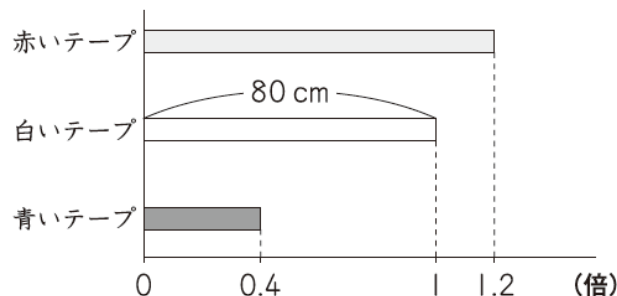
2 (2) ② 課題となった問題の分析

算数②

課題となった問題

● A 2 (1) (2)

図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。



(1) 赤いテープの長さを求める式を、下の1から4までのの中から1つ選びましょう。本県71.4, 全国71.9, (－0.5)

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 $80 + 0.2$ (17.2%) | 2 $80 - 0.2$ (2.1%) |
| 3 80×1.2 (71.4%) | 4 $80 \div 1.2$ (9.1%) |

(2) 青いテープの長さを求める式を、下の1から4までのの中から1つ選びましょう。本県56.0, 全国54.1, (+1.9)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 $80 + 0.6$ (1.5%) | 2 $80 - 0.6$ (15.7%) |
| 3 80×0.4 (56.0%) | 4 $80 \div 0.4$ (26.6%) |

課題

解答類型から、実際のテープの長さと割合との混同がみられること、乗法と除法の意味の理解が十分でない状況があります。

本調査問題は、平成24年度に除法の場面における類似問題が出題され、場面と図を関連付けて考えること及び乗法と除法の意味の理解に課題がみられました。今後も引き続き、指導の改善・充実が求められる内容です。

指導のポイント

計算の意味の指導においては、問題場面の数量の関係を図に表す指導を系統的、且つきめ細かに行うことが大切です。

また、図に示された数量の関係から式を選択する（式に書く）段階で、そのように判断した根拠を明確にし、数量の関係を的確に捉えさせることが必要です。

2 (2) ③ 課題となった問題の分析

算数③

課題となった問題

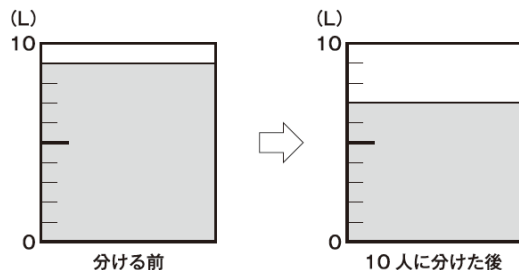
●正答率が最も低いB問題

・B3(3) 本県30.9%, 全国30.6%, (+0.3%)

かつやさんたちは、宿泊学習に来了います。
(3)ともみさんは、右のような入れ物に入っているスープを分ける係になりました。



ともみさんは、玉じゃくし1ぱいを1人分として、40人に分け始めました。すると、分ける前と10人に分けた後では、下の図のようになりました。



この分け方で、残りの30人にスープを分けることができますか。
次の1 から3 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 足りなくなって、分けることができない。
- 2 残さず分けることができる。
- 3 分けることはできるが、残る。

課題

示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述することに課題があります。

○「3」が選択できた児童は80.0%

【解答類型】

○3と答えているが説明が不十分 : 49.1%

○3と答えて説明も十分 : 30.9%

指導のポイント

数量の大小を判断した根拠を説明する際には、比較する対象を明確にして考察することが大切です。

指導に当たっては、例えば「10人分のスープの量は2Lで、30人に必要なスープの量は6Lとなるから、分けることはできますが、残ります。」のように、根拠が不足している説明を、さらに適切な表現へと高めていく指導が考えられます。

2 (3) 小学校算数に関する質問紙調査分析

質問紙（小学校算数に関する内容）から見えてきたこと

児童質問紙から

多くの児童が、記述式問題の解答を最後まで書こうと努力しています。一方、もっと簡単に解く方法がないか考えたり、公式やきまりのわけを理解したりすることは、全国平均に比べて低い傾向にあります。

- 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか
「全ての書く問題で最後まで解答と書こうと努力した」
 - ・ 本県79.8%, 全国79.7%, (+0.1)
- 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか
「当てはまる」
 - ・ 本県44.6%, 全国45.7%, (-1.1)
- 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか
「当てはまる」
 - ・ 本県43.0%, 全国46.3%, (-3.3)

学校質問紙から

補充的な学習の指導や、習熟の遅いグループに対する少人数指導の実施状況は、高い傾向にあります。一方、授業時における計算問題などの反復練習の実施状況は、全国平均に比べて低い傾向にあります。

- 算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県41.5%, 全国35.9%, (+5.6)
- 算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしていますか
「年間授業のおおよそ3/4以上」
 - ・ 本県24.7%, 全国19.6%, (+5.1)
- 算数の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県52.2%, 全国56.8%, (-4.6)

2 (4) ① 授業づくりに当たって (算数)

1 「身に付けたい力」をより明確にして、効果的な言語活動を位置付けましょう。

- ・ 本時のねらいをより明確にすること。
そのために、授業のまとめの段階で、児童に分かってほしい事柄や気付いて欲しい事柄を児童の言葉で書いてみると、本時のねらいがより明確になります。
- ・ 本時のねらいを達成するため、何を考えさせ、何を話し合わせるのか、何について書かせるのか等、焦点を絞った活動を位置付けること。

2 必要な学習活動を焦点化し、適用問題まで確実に位置付けましょう

- ・ 適用問題に取り組むことによって、はじめて分かる児童も多くいることに留意し、確実に位置付けること。
- ・ 適用問題を位置付けるための時間を確保するために、授業の焦点化を図ること。
- ・ 本時の目標の観点に応じた適切な適用問題を設定すること。
- ・ 1時間のまとめを確実に位置付け、一人一人が分かる授業行うこと。

2 (4) ② 授業内容における改善のポイント (算数)

学力調査結果の分析から明らかになった算数科の内容について、
よりよい指導法の研究に取り組みましょう。

- 乗法や除法について、式の意味、小数で割ることの意味、積や商の意味など、系統的な理解を図ること。
- 問題における数量の関係を図に表す活動、図から式を考える活動、立式の根拠を図から説明する活動を重視すること。
- 自らの説明の根拠として、式、表、グラフ等を活用する学習活動を重視すること。
- 説明を書かせるだけではなく、よりよい説明のために必要な要件について、理解させる指導を重視すること。
- 図形の作図においては、作図の技能の指導に偏ることなく、図形の性質と関連させた学習活動を重視すること。

3 中学校国語

- （１）調査結果の成果と課題**
- （２）課題となった問題の分析**
- （３）質問紙調査分析**
- （４）指導改善のポイント**

3 (1) 調査結果の成果と課題

成 果

「急がば回れ」「文化を継承する」など、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことはよくできています。

○関連する問題(A 8三アイウエオカキ)

「擬人法」など、表現の技法について理解することはよくできています。

○関連する問題(B1一)

中学校国語

課 題

目的に沿って話し合い、互いの意見の共通点や相違点を整理することに課題があります。

●関連する問題(A6一)

複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること、また、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題があります。

●関連する問題(B2一・三)

文章の構成や叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換えることに課題があります。

●関連する問題(A4二・7二)

3 (2) ① 課題となった問題の分析

中学校国語①

課題となった問題

●正答率が最も低いA問題(漢字を除く)

- ・A6ー
- ・本県56.3%, 全国54.3%, (+2.0%)

「課題」にある共通点の欄の□に当てはまる言葉を、高橋さんの発言の中にある言葉を使って、六字以内で書きなさい。

題名の候補について

候補	メモリー ～いつも胸に友がいた～	はばたき ～きずなを胸に～
整理	学級の団結力	
共通点		
相違点	過去の思い出	

【話し合いの一部】

前田、題名の候補を「メモリー」いつも胸に友がいた」と「はばたき」～きずなを胸に～に決めました。今日は、題名を決定します。まず、それぞれの題名の推薦者から再度意見を聞きます。そして、話し合ってみます。それでは、南さんからお願いします。

南さん 「メモリー」いつも胸に友がいた」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出さう。また、副題から、学級でいつも団結できたことも表せます。

高橋さん 「はばたき」～きずなを胸に～を推薦する理由は一つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、何事も団結して取り組んだ学級のこと「きずな」という言葉に込められているからです。

【黒板】
⑥ 前田さんの学級では、卒業文集の題名を決めています。次は、話し合いの内容を整理した「課題」と「話し合いの一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

課題

目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して共通点や相違点を整理することに課題があります。

【解答類型】

条件①, ②を満たしているもの(56.3%)

条件①を満たし、条件②を満たしていないもの(0.4%)

条件②を満たし、条件①を満たしていないもの(35.6%)

上記以外の解答(2.1%), 無解答(5.5%)

指導のポイント

司会が話し合いの目的を適切に捉えて進行するよう指導することが大切です。そのためには、図表を用いるなどして、発言の共通点や相違点などを、観点に沿って整理する学習活動が有効です。

【参考】

平成23年度調査問題【小学校】B1二(1)

3 (2) ② 課題となった問題の分析

中学校国語②

課題となった問題

●正答率が最も低いB問題

- ・B2三
- ・本県27.9%, 全国28.4%, (－0.5%)

課題

目的に応じて適切な情報を得て、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことに課題があります。

【解答類型】

条件①, ②, ③を満たしているもの(27.9%)

条件①、②を満たし、条件③を満たしていないもの(0.1%)

条件①、③を満たし、条件②を満たしていないもの(1.1%)

条件②, ③を満たし, 条件①を満たしていないもの (53. 2%)

上記以外の解答(4. 3%), 無解答(13. 4%)

指導のポイント

本や資料から得た情報を、他の人に説明する機会を設定し、定着を図ることが大切です。

生徒を言語活動に取り組ませる際に、より客観的な評価基準を設定し、生徒が表現した内容が適切であるかを判断し、必要に応じて指導を加えることが大切です。

2 次は、接着剤について書かれた『本の一部』と『インターネットの情報の一部』です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

いろいろな物をつくつてくれる操業制。物を組み立てるときに壊れた物を直すときなどに、とても便利なものである。なぜ操業制の物と物をつくつてくれることができるのでしょうか。物をくつづける仕組みにはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みで考えてみましょう。

接着する物の表面を

厚膜被で見てみると、
つるつるしているよう
に見える金属である。そ
の表面には肉眼では見
えない凹凸がある。そこ
に

The diagram consists of three vertically stacked panels illustrating the process of applying a bonding agent to a surface.

- Top Panel:** A simple circle representing a "接着剤" (Bonding Agent) is shown above a jagged line representing the "物" (Object). An arrow points from the bonding agent towards the object's surface.
- Middle Panel:** The bonding agent has been applied, forming a thick layer over the object's surface. The label "物" is at the bottom. Text labels include "物の表面には凹凸がある。" (The surface of the object has irregularities), "広がった接着剤" (Spread bonding agent), and "接着剤が凹凸のすき間に入り込む。" (The bonding agent enters the gaps between the irregularities).
- Bottom Panel:** The bonding agent has hardened or cured, filling the gaps and creating a smooth, continuous layer over the entire surface. The label "物" is at the bottom.

接着力を塗ると、同時に、そのときに接着力が入り込みます。そして、瞬間に入った接着力が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいますが、アンカーとは船の錨のことです。接着力が物にくっつく仕組を、海流に逆下るし船を留めおく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態で物の表面に広く行き渡った接着力が、瞬間に入ってから固体と結合して、物と物とをくっつけているのです。

次に、接着剤が液体から固体になる変化について考えてみましょう。

接着剤が液体から固体になる変化には、いくつかの種類があります。例えば、工作用のりや木工用接着剤は、接着剤の中に水分や溶剤を含んでいて、それらが蒸発することによって固まります。水分を含んでいない切手の場合も同様で、切手の裏側のり

の部には、ぬすここの液体の蒸着剤に、ついで、蒸着剤に含れる水分が蒸発することになる。蒸着剤が液体から固体になる点と共通している。また、アイロンドでつくったタイのアップリカの検査は、固まってきた蒸着剤がアイソンの熱によってけいしたん液になり、それが布で固体になることと同じ。このように、熱をかけることによって液体を固体にするところ、蒸着剤をホトメタル蒸着剤といふ。他にも、例えば、蒸着剤の二倍濃縮した、その後、液が冷えて固まるところでつくった蒸着剤をホトメタル蒸着剤といふ。他にも、例えば、化学薬品を起して固体にするものがあります。例は、固着剤の表面は、乾いているように見えても、実際には水分を含んでいます。また、空気中にも水分が含まれてその上、非常に高いスピードで固体に変化するのです。

最後に、接着剤がどのような場面で使用されて

接着剤の用途を調べると、思いより少ないものに接着剤が用いられていることがわかります。例えば、飛行機やスベリシャトルの機体の組み立てには接着剤を使用しています。電子部品を作る際にも、金属の粉を溶かして接着剤に使用することがあります。また、つり橋のには、橋を支えるコブを、コンクリートでまた土台の中に接着剤で固めていて橋もあります。このように、現代において接着剤は、様々な方面で使用されています。

(注1) 溶劑＝物質を溶かすのに用いる液体状のもの。
(注2) アップリケ＝布地の上に、別々に切った布の革を縫い付けたり、貼り付けたりする手芸。また、その付けられたもの。

「インターネットの情報の一部」は、次のページにあります。

三 封筒に貼つてある切手を水の中にしばらく浸しておく、きれいいにはがすことができますようになります。その理由を次の条件と条件にしたがつて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「切手」、「液体」、「アンカー効果」という言葉を全て使って書くこと
条件2 二十字以上、五十字以内で書くこと。

3 (2) ③ 課題となった問題の分析

中学校国語③

課題となった問題

●ABを通して全国平均と比べて差が最も大きい問題

- ・A4二
- ・本県75.9%, 全国80.5%, (-4.6%)

「憧れの先輩に学ぶ！」

5月13日、サッカー部では、本校の卒業生、プロサッカー選手の青木太郎さんをお迎えして「サッカー講習会」を行いました。部長が、青木さんを先導し、グラウンドに登場しました。

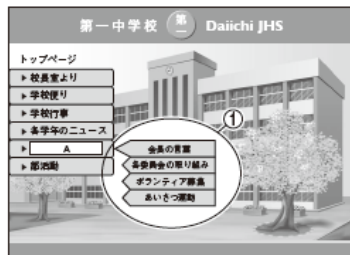
↓

青木さんが、、グラウンドに登場しました。

行事の記録の一部

書き置いた一文

二 池田さんは、ウェブページに載せるために「行事の記録」をまとめている。掲載するにあたって、一 池田さんは「青木さん」を主語にして一文を書き直そうと思っています。□の中に入るものとしてふさわしい内容を、意味が通ないうようにして書き直そうと、空欄(1)と(2)に記入しようとしています。



ウェブページの一部

4 池田さんは、第一中学校のウェブページを作成しています。次は、そのウェブページの一部です。これを見、あとの問いに答えなさい。

- 一 ウェブページの一部の□Aの部分をクリックすると、①のよう
うな画面が現れるようにしたいと考えています。□Aの右側を
て最上段のもの、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 年間の予定
 - 2 授業の様子
 - 3 本校の案内
 - 4 生徒会活動

課題

文章の構成や叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換えることに課題があります。

【解答類型】

条件①, ②を満たして解答しているもの(75.9%)
条件①を満たし、条件②を満たしていないもの(0.0%)
条件②を満たし、条件①を満たしていないもの(13.2%)
上記以外の解答(7.3%), 無解答(3.5%)

指導のポイント

書いた文章を推敲する際に、伝えたい事柄が明確になるように、主語と述語の関係や修飾語・被修飾語の関係など文の構成や接続の仕方に着目して、その効果を検討するよう指導することが大切です。

例えば、同じ事柄であっても主語を変えることで内容の伝わり方が変わること、文章に書くことで実感させると効果的です。

3 (3) 中学校国語に関する質問紙調査分析

質問紙（中学校国語に関する部分）から、見えてきたこと

生徒質問紙から

多くの生徒が、記述式問題の解答を最後まで書こうと努力しています。一方、話の組み立てを工夫して発表したり、考えの理由が分かるように書いたりすることは、全国平均に比べて低い傾向にあります。

- 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」

- ・ 本県73.5%, 全国70.4%, (+3.1)

- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか

「当てはまる」

- ・ 本県9.6%, 全国11.7%, (-2.1)

- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

「当てはまる」

- ・ 本県15.7%, 全国18.2%, (-2.5)

学校質問紙から

目的や相手に応じて話したり聞いたりする取組の実施状況は高い傾向にあります。一方、様々な文章を読む習慣や、基礎的・基本的な事項を定着させる授業の実施状況は、全国平均に比べて低い傾向にあります。

- 国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか 「よく行った」

- ・ 本県28.3%, 全国18.9%, (+9.4)

- 国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか

「よく行った」

- ・ 本県20.9%, 全国23.3%, (-2.4)

- 国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか 「よく行った」

- ・ 本県47.7%, 全国57.9%, (-10.2)

3 (4) ① 授業づくりに当たって (中学校国語)

- 1 指導事項等を確実に身に付けるための単元を貫く言語活動を充実させましょう。
 - ・ 「身に付けたい力」「言語活動」「教材文」の有機的な関連付けを図ること。
 - ・ 生徒の主体的な思考力・判断力が生かされる言語活動を設定すること。
 - ・ 思考力, 判断力, 表現力等を高めるための発問を工夫すること。
- 2 漢字, 語句, 故事成語の意味や使い方の定義を確実に習得させましょう。

3 (4) ② 指導内容における改善のポイント (中学校国語)

学力調査結果分析から見える課題に応じた内容の研究を充実させましょう

- 各教科等との関連を図りながら，司会の経験をする機会を設定するとともに，目的に合った結論を導き出すための話合いができるよう指導すること。
- 伝えたい事柄を明確にし，目的や相手に応じて，取り上げる内容，順番等を考え，よりよい文章となるように指導すること。
- 複数の資料から必要な情報を読み取り，整理したり，要旨を捉えたりする学習活動を設定すること。

4 中学校数学

- （１）調査結果の成果と課題**
- （２）課題となった問題の分析**
- （３）質問紙調査分析**
- （４）指導改善のポイント**

4 (1) 数学に関する調査結果の成果と課題

成 果

関数領域の内容のうち、特に反比例における x と y の値の変化の特徴を理解することや、一次関数 $y = ax + b$ における a と b の値とグラフの特徴を理解することに改善の状況がみられます。

○関連する問題

・A10(2), A11(2)

与えられたグラフにおける二つの数量の関係や、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することはよくできています。

○関連する問題

・B6(1), (2)

日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を言葉や図などで説明することはよくできています。

○関連する問題

・B1(3), B3(2)

数学

課 題

円柱と円錐の体積の関係について理解することに課題があります。

●関連する問題

・A5(4)

記述式の問題では、確率を用いて理由を説明したり、グラフを用いて問題解決の方法を説明したりすること、方針を立てて図形の証明を書くことに課題があります。

●関連する問題

・B4(1), B5(2), B6(3)

比例の関係を式に表すことや与えられた式を基に2つの数量の関係が比例であることを判断することに課題があります。

●関連する問題

・A10(1), A10(3)

4 (2) ① 課題となった問題の分析

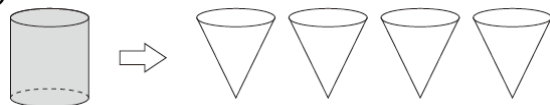
数学①

課題となった問題

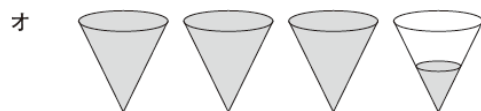
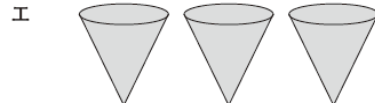
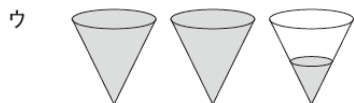
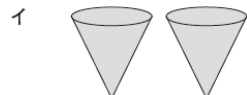
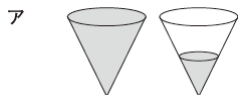
●正答率が最も低いA問題

・A5(4) 本県35.1%, 全国38.7%, (－3.6%)

下の図は、円柱、円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは等しいことがわかっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。



このとき、下のアからオまでの中に、円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを1つ選びなさい。



課題

円錐の体積と、底面が合同で高さが等しい円柱の体積の関係を理解することに課題があります。

【解答類型】

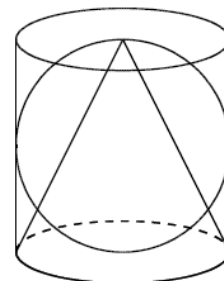
○「イ」を選んだ生徒：39.2%

円柱の体積と円錐の体積の関係を2:1と捉えている可能性があります。

指導のポイント

指導に当たっては、柱体の体積と錐体の体積の関係を予想し、模型を用いた実験による測定を行って確かめるなど、実感を伴って理解できるようにすることが大切です。

また、右の図のような円柱、球、円錐のそれぞれの体積の比が3:2:1になっていることを実験や公式から捉え、理解を深めることも大切です。



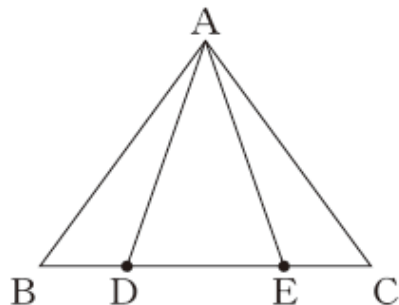
4 (2) ② 課題となった問題の分析

数学②

課題となった問題

●B4(1) 本県37.1%, 全国39.4%, (−2.3%)

下の図のように、 $AB=AC$ の二等辺三角形 ABC の辺 BC 上に $BD=CE$ となる点 D 、点 E をそれぞれとります。



(1) $AD=AE$ となることを証明しなさい。

【関連】A8 本県74.7, 全国75.8, (−1.2)

※問題は、B4と同じ

- (1) $AD=AE$ を証明するためには $\boxed{①} \equiv \boxed{②}$ を示せばよい。
- (2) $\boxed{①}$ と $\boxed{②}$ の辺や角について、等しいといえるものを探せばよい。まず、仮定から、 $AB=AC$ 、 $BD=CE$ がいえる。
- (3) (2)を使うと、(1)の $\boxed{①} \equiv \boxed{②}$ が示せそうだ。

課題

証明の方針に従って適切に記述することに課題があります。

(この問題は、A問題でも出題されました。)

○着目すべき2つの三角形を示すことができる
→74.7%

【解答類型】

○着目すべき2つの三角形を示すことができた上で、三角形の合同条件を使って証明が書ける。
→37.1%

指導のポイント

指導に当たっては、A8に示されたように、証明の方針を立てる場面を設定し、証明の方針に基づいて証明を書くことができるように指導することが大切です。

その他、説明を記述させる場面においても、条件が不足した説明を基に、追加すべき条件等について話し合う活動を取り入れ、より適切な説明へと高める活動を取り入れることが大切です。

4 (2) ③ 課題となった問題の分析

数学③

課題となった問題

●ABを通して全国平均と比べて差が大きい問題

・A10(1) 本県52.8%, 全国56.7%, (−3.9%)

(1) y が x に比例し, $x=2$ のとき $y=6$ です。
 y を x の式で表しなさい。

・A10(3) 本県58.0%, 全国60.4%, −2.4%

(3) 分速 v m で t 分間歩いたときの選んだ道のりを s m とする
とき, 道のり s を次のように表すことができます。

$$s = vt$$

歩く速さ v が一定のとき, 選んだ道のり s と歩いた時間 t の関係について, 下のアからエまでの中から正しいものを1つ
選びなさい。

- ア s は t に比例する。
イ s は t に反比例する。
ウ s は t に比例しないが, s は t の一次関数である。
エ s と t の関数は, 比例, 反比例, 一次関数のいずれでもない。

課題

(1)では比例の関係を式に表すこと, (3)では具体的な事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することに課題があります。

【(3)の解答類型】

- 「イ」を選んだ生徒 : 12.9%
○「ウ」を選んだ生徒 : 21.0%
○「エ」を選んだ生徒 : 7.1%

比例, 反比例, 一次関数の式の特徴について十分な理解ができていないものと考えられます。

指導のポイント

具体的な事象における数量の関係を表す式において, ある数量を定数とみたり変数とみたりして2つの数量の関係を調べ, その意味を捉える活動を取り入れます。

その際, 定数と変数が捉えにくいことに配慮し, 定数を表す文字は具体的な数に, 変数を表す文字は x と y に置き換え, もとの式と対比して理解できるように指導することが大切です。

4 (3) 中学校数学に関する質問紙調査分析

質問紙（中学校数学に関する部分）から、見えてきたこと

生徒質問紙から

多くの生徒が、記述式問題の解答を最後まで書こうと努力しています。一方、もっと簡単に解く方法がないか考えたり、公式やきまりの根拠を理解したりすることは、全国平均に比べて低い傾向にあります。

- 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか
「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」
 - ・ 本県59.1%, 全国57.7%, (+1.4)
- 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか
「当てはまる」
 - ・ 本県30.8%, 全国33.6%, (-2.8)
- 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか
「当てはまる」
 - ・ 本県28.1%, 全国32.5%, (-4.4)

学校質問紙から

習熟度別指導の実施状況について高い傾向があります。一方、授業の中で、計算問題などの反復練習を行うことについては、全国平均に比べて低い傾向があります。

- 数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか
「よく行った」
 - ・ 本県29.7%, 全国17.2%, (+12.5)
- 数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県23.8%, 全国13.4%, (+10.4)
- 数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか
「よく行った」
 - ・ 本県47.1%, 全国51.5%, (-4.4)

4 (4) ① 授業づくりに当たって (数学)

1 「身に付けたい力」をより明確にして、効果的な言語活動を位置付けましょう。

- ・ 本時のねらいをより明確にすること。
そのために、授業のまとめの段階で、生徒に分かってほしい事柄や気付いて欲しい事柄を生徒の言葉で書いてみると、本時のねらいがより明確になります。
- ・ 本時のねらいを達成するため、何を考えさせ、何を話し合わせるのか、何について書かせるのか等、焦点を絞った活動を位置付けること。

2 必要な学習活動を焦点化し、適用問題まで確実に位置付けましょう。

- ・ 適用問題に取り組むことによって、はじめて分かる生徒も多くいることに留意し、確実に位置付けること。
- ・ 適用問題を位置付けるための時間を確保するために、授業の焦点化を図ること。
- ・ 本時の目標の観点に応じた適切な適用問題を設定すること。
- ・ 1時間のまとめを確実に位置付け、一人一人が分かる授業行うこと。

4 (4) ② 授業内容における改善のポイント (数学)

学力調査結果の分析から明らかになった数学科の内容について、
よりよい指導法の研究に取り組みましょう。

- 関数の意味を理解させるとともに、表や式、グラフを相互に関連付け、関数を判断させる活動を重視すること。
- 証明の方針を立て、その方針に基づいて証明を書くことができるよう、きめ細かな指導を重視すること。
- 自らの説明の根拠として、式、表、グラフを活用したり、確率を活用したりするなど、関連を図った指導を重視すること。
- 説明を書かせるだけではなく、よりよい説明のために必要な要件について、理解させる指導を重視すること。
- 図形の作図においては、技能の指導に偏ることなく、作図の根拠となる図形の性質について理解させること。

1 児童・生徒質問紙調査結果

2 学校質問紙調査結果

1 児童・生徒質問紙調査結果（1）

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目 (全国との差が顕著な18項目を抜粋)	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
関心 (言語活動・学習状況・指導状況)	1. 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	65.0	63.8	1.2	56.3	54.8	1.5
	2. 友達の前で、自分の考えや意見を発表することは得意ですか	49.1	49.5	-0.4	44.3	48.6	-4.3
	3. 小学5年生(中学2年生)までに受けた授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	87.9	84.9	3.0	81.6	75.3	6.3
	4. 小学5年生(中学2年生)までに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	86.9	82.0	4.9	81.5	71.5	10.0
	5. 小学5年生(中学2年生)までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	73.8	71.9	1.9	55.6	53.3	2.3
学習時間等	6. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師も含む)※1時間以上の合計	65.0	55.9	9.1	75.2	67.4	7.8
	7. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	59.4	61.0	-1.6	43.4	46.6	-3.2
	8. 家で、学校の授業の予習をしていますか	41.9	43.2	-1.3	30.5	34.2	-3.7
	9. 家で、学校の授業の復習をしていますか	60.7	54.0	6.7	53.8	50.4	3.4

1 児童・生徒質問紙調査結果（2）

数値は、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの肯定的評価の合計を示す。

単位(%)

	質 問 項 目 (全国との差が顕著な18項目を抜粋)	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
生 学 活 校	10.先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	82.5	79.7	2.8	77.8	74.1	3.7
習 生 慣 活	11.普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（2時間より少ない）	93.6	91.3	2.3	73.3	67.0	6.3
家 庭	12.家の人（兄弟姉妹は除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか	96.7	96.5	0.2	88.4	83.1	5.3
地 域	13.今住んでいる地域の行事に参加していますか	74.8	68.0	6.8	40.4	43.5	-3.1
社 会	14.テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	83.9	84.7	-0.8	81.5	82.1	-0.6
将 来	15.将来の夢や目標を持っていますか	87.6	86.7	0.9	71.4	71.4	0.0
自 尊 意 識	16.ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	94.0	94.4	-0.4	93.6	93.9	-0.3
	17.難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	74.4	75.1	-0.7	63.7	68.0	-4.3
意 規 識 範	18.いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.1	96.4	0.7	94.6	93.4	1.2

2 学校質問紙調査結果

数値は、選択肢「よく行った」「どちらかといえば、行った」などの肯定的評価の合計を示す。単位(%)

	質 問 項 目 (全国との差が顕著な10項目を抜粋)	小学校			中学校		
		県	全国	差	県	全国	差
向学 上力	1.調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか	47.6	61.1	-13.5	61.6	79.8	-18.2
方指 法導	2.調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあてねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか	98.3	96.9	1.4	99.4	94.0	5.4
ピコ yun	3.調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度に、算数・数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか	57.6	40.8	16.8	37.8	21.4	16.4
の調 査用 結 果	4.平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	95.1	93.6	1.5	93.0	90.4	2.6
	5.平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	78.6	81.1	-2.5	69.2	75.6	-6.4
指個 導別	6.調査対象学年の児童(生徒)に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	33.8	29.0	4.8	35.5	22.7	12.8
国 語	7.調査対象学年の児童(生徒)に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	97.8	97.8	0.0	97.1	98.3	-1.2
学 家 習 庭	8.調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語/算数・数学共通)	83.0	85.4	-2.4	73.3	76.9	-3.6
研職 修員	9.模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	96.4	94.9	1.5	89.5	86.7	2.8
	10.授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか(13回以上)	43.7	30.1	13.6	25.0	15.4	9.6

3 質問紙調査の結果から

児童・生徒質問紙から

- 授業はじめの目標設定や授業中の話し合い活動、終末での振り返り活動は、よく行われています。自分の考えや意見を発表する機会を一層充実させましょう。
- 復習を中心に家庭学習によく取り組んでいます。今後、計画的に家庭学習に取り組めるような工夫をしましょう。
- 携帯電話やインターネット等の活用について、ルールや約束事を決めて、守りましょう。

学校質問紙から

- 「朝の読書」や読み聞かせ活動の一層の充実を図りましょう。
- 調査結果や課題解決に向けた今後の取組などを積極的に公表し、家庭や地域と連携した学力向上に取り組みましょう。
- 日々の授業の改善につながるよう、実践的な研修の推進を図りましょう。

県教育委員会の取組

学力向上に向けた 説明会等を実施します

- ・ 校長会や教務主任会等で、調査結果と今後の取組について説明します。
- ・ 学力向上対策検討委員会で今後の方策について提案します。

県学力調査を実施します

- ・ 12月実施予定です。
- ・ 調査結果及び課題克服プリントを提供します。

県教委としての 取組

授業研究を支援します

- ・ 校内研究会へ指導主事を派遣します。
- ・ 授業マイスターの授業公開を行います。

好事例を発信します

- ・ 学力向上に向けた特色ある取組を行っている学校の事例を紹介します。

過去問題を提供します

- ・ 全国学力・学習状況調査単元別過去問題
- ・ 過去の県学力調査（ゆうチャレンジ）問題
- ・ ゆうチャレンジ単元別評価問題



1 過去問題の提供

対応表と関連問題の活用

26年度全国学力・学習状況調査小学校算数A問題と
ゆーチャレンジ単元別評価問題及び全国学力・学習状況調査単元別過去問題との対応表

問題番号	設問の概要	出題の趣旨	単元別評価問題	学力調査過去問題
1 (1)	46+57を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	2. 加法・減法	1302: たし算とひき算の筆算
1 (2)	903×6を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3. 乗法	該当過去問題なし
1 (3)	9-0.8を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	5. 小数の意味や表し方	1405: 小数の仕組み、し算とひき算
2 (1)	を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	3. 整数の除法	1403: 整数のわり算(除数が一桁)
2 (2)	-20×4を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	4. 整数の計算の能力の定着	1413: 四則に関して成り立つ性質、式
3 (1)	÷5を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	4. 分数	1506: 等しい分数、分数のたし算とひき算
3 (2)	を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さの1.2倍に当たる青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	3. 小数の乗法、除法 2. 小数・分数の計算の能力の定着	1503: 小数のかけ算
3 (3)	を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たる青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	3. 小数の乗法、除法 2. 小数・分数の計算の能力の定着	1503: 小数のかけ算
4 (1)	示された分数の中から1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	6. 同分母分数加法、減法 4. 分数	1407: 分数のき算 1506: 等しいのたし算とひき算
4 (2)	8mに16人いるAの部屋のの様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	8. 異種の二つの量の割合	1511: 単位量
4 (3)	8mに16人いるAの部屋について、1m当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	8. 異種の二つの量の割合	1511: 単位量
5 (1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	4. 円と球 4. 円と球の大きさ	1512: 多角
5 (2)	1cmの立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm ³)と測定について理解している	6. 体積の単位と測定	1509: 体積
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	10: 平行四辺形、ひし形、台形 9: 平行四辺形の性質	1410: 垂直、平行 1513: 図形の合同、性質

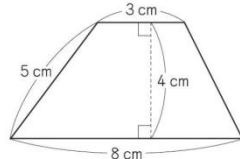
課題に対応する項目をクリック

問題が提示されます

全国学力・学習状況調査過去問題
～小学校第5学年算数「図形の面積」～(1508)

名前 _____

1 下の台形の面積を求める式と答えを書きましょう。



(H25 図 (3))

各児童生徒の課題解決に向けて、補充問題を活用しましょう

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（1）

授業改善のポイント

授業のはじめにより具体的なめあてを設定する。

A 中学校の事例

より具体的なめあてを設定するための考え方

- ①その授業における学習の本質を突いたものであること
- ②具体的な問いかけであり、ゴールまで見通せること
- ③学習意欲を刺激する魅力的なものであること
- ④子どもの実態に応じたレベルと表現であること

【国語の場合】

従来：それぞれの表現技法の特徴を知ろう。



改善：それぞれの表現技法の効果の違いを具体例を示して説明しよう。

【数学の場合】

従来：三角形の合同を説明しよう。



改善：二つの三角形に着目し、どの合同条件を使って証明できるか判断しよう。

「これまでの課題が生徒に理解されていない」という反省から、学習課題の言葉を焦点化したことにより、生徒が何について「学び合う」のか明確に捉えることができます。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（2）

授業改善のポイント 授業での「学び方」のポイントを徹底させる。

B 小学校の事例

話し合いのてびき(高学年)

感想・アドバイス型

○自分の考えを伝えましょう。
○友だちの発表をしっかりと聞き感想を伝えましょう。
(よりよくなるために、アドバイスをしましょう。)

- ①これから「〇〇」についての話し合いを始めます。
大事な言葉や内容はメモをとりながら聞いて、話し合いましょう。
- ②〇〇さんから順番に発表してください。
- ③〇〇さんの発表に質問や感想はありませんか。
- ④もっとこうするとよくなると思うことはありませんか。
- ⑤これで「〇〇」についての話し合いを終わります。

気づき・発見型

○自分の考えを伝えましょう。
○それぞれの気づきや発見を出し合いましょう。

- ①これから「〇〇」についての話し合いを始めます。
大事な言葉や内容はメモをとりながら聞いて、話し合いを深めていきましょう。
- ②〇〇さんから順番に話してください。
- ③〇〇さんの考えは、みなさん、分かりましたか。

ノート指導の手引き【算教科編】

ポイント①
ノートの左がわ1マス分をインデックススペースとして空け、線を引く。

ポイント③
問題提示とめあては、学習の流れに従って、書きます。

ポイント④
一人学びの「もとめる」段階では、今まで学習した式、言葉の式、絵や図などを活用して自分の考えをまとめていきます。

ポイント⑤
めあて・・・め
問題・・・問
自分の考え・・・自
友達への考え・・・友
まとめ・・・ま
練習問題・・・ページと番号
等、省略した記号を書きます。

ポイント⑧
学習日記を書かせるときがあります。段階に応じて、意図的・計画的に書かせていきます。

ポイント②
めあては赤線、まとめは青線、問題文は鉛筆で囲みます。

ポイント⑥
1時間の学習のまとめは、学年が上がるにつれて、自分の言葉でまとめられるように指導していきます。

ポイント⑦
今日の学習が分かったか、教科書のたしかめの問題を解きます。

B小学校では、話し合いやノート指導などの手引きを積極的に活用することで、教師も児童も常にポイントを意識しながら授業に取り組むことができます。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（3）

授業改善のポイント 予習をして授業に臨む姿勢をつくる。

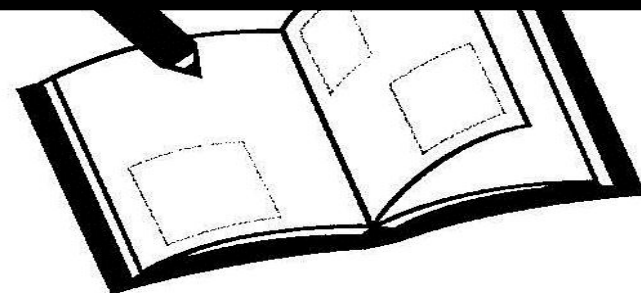
C 中学校の事例

国語科

2 学習の方法

(1) 予習の仕方

- ① 教科書の新しい文章を学習するときは、その文章を音読し、読みのわからない語、意味のわからない語、疑問に思う部分に印を付けたり、付箋を付けたりします。
- ② 話すこと聞くことの学習、書くことの学習、言語事項（漢字や文法）の学習に入るときは、教科書の説明を読み、理解できない部分に印を付けます。
- ③ 副教材「漢字スキル」の各ページの上半分を使って、漢字の読み・筆順・部首名などを確認します。



「学習オリエンテーション資料」より抜粋

社会科

(予習の進め方)

①教科書を読む

→②太字で書かれている重要語句にアンダーラインを引く

→③アンダーラインを引いた語句を用語集で調べる

→④用語集で調べた語句の最初の一文を授業用のノートに写す。

※ 提出物を、期限までに、きちんと提出できることなども学力です。先を見通せる計画力と実行力が、成績向上に一番必要な学力の1つでもあります。

家庭学習で予習も重視することで、生徒が授業で見通しをもって学ぶことにつながっています。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（4）

授業改善のポイント ICTを効果的に活用した授業改善（デジタルとアナログの融合）

D 小学校の事例

【ICT活用のポイント（例）】

① 教師の活用

学習の流れを示すプレゼンや、本時の資料を電子黒板で提示し、児童が見通しをもって学習を進めたり、資料と関連させて学び合ったりできるようにする。

② 児童の活用

考えを練り上げる場面では、根拠となる資料をタブレットPCに映し出して、児童が「考えを共有」しながら、学びを広げ・深めることができるようにする。



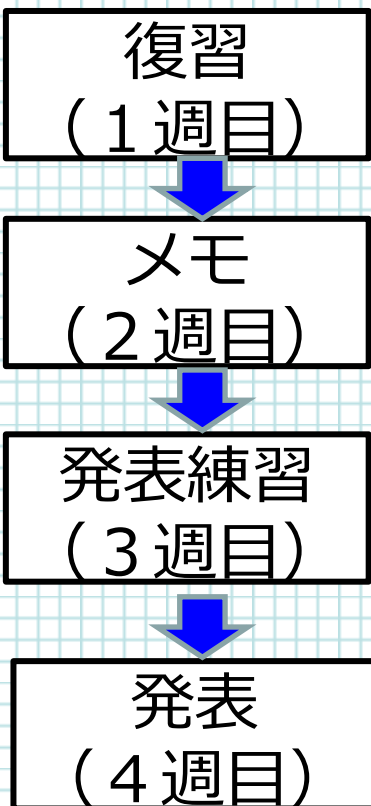
【学習の見通しをもたせる】

「学習の見通しをもつ(デジタル)」「書きながら考えをまとめる(アナログ)」「考えを視覚的に共有する(デジタル)」など、活動のねらいに合わせてICTが効果的に活用されています。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（5）

補充学習のポイント 「表現する力」を高める取組

E 小学校の事例



④発表タイム グループで発表し合い、お互いに評価し合おう。 (班で交代しながら話そう。)	③(発表練習) メモをもとにすいせんスピーチを練習しよう。 (ペアで交代しながら話そう。)	②(メモを書こう) すいせんする人をきめてその人のよさがわかるようなメモを書こう。 (ペアで相談しよう)	①(復習しよう) ゲストティーチャーをすいせんします。発表者になりきって話してみよう。 (ペアで交代しながら話そう。)
わたしは さんは、ゲストティーチャーにびつたりです。 自己評	わたしは さんをすいせんします。 自己評	理由② 理由① すいせんする人 自己評	わたしは松井さんをすいせんします。 松井さんは、白川の近くに住んでいて、白川のことなら何でも知っています。白川にいる魚の種類や、草花の名前、さらにどんな川なのかという歴史も知っています。 以前、白川のことをやさしくていねいに教えてくれました。話し方が上手なので、白川のことを楽しく本当によくわかりました。 白川のことを一番よく知っているのは松井さんにまちがいありません。白川博士の松井さんはゲストティーチャーにびつたりです。 自己評

「話す・聞く力ぐんぐんタイム」学習シート
五年組 番

☆めあて 理由を明確にして、人物をすいせんするための話をしよう。
ゲストティーチャーに来てもらい、話を聞いたり、得意なこと教えてもらったりすることになりました。学校に来てもらいたい人をすいせんしよう。



週1回の「ぐんぐんタイム」では、一つのテーマを4週間かけて学んでいきます。年間を通して「表現する力」を高めることができます。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（6）

補充学習のポイント

学力調査問題を活用した補充学習

F 小学校の取組

過去の調査問題に

- ・ 該当学年
- ・ 領域
- ・ 過去の正答率

を、明示します。

宿題や補充学習として活用します。

H24	3	(2)	第4学年	C 図形(1)イ	正答率	5%
H24			第5学年	B 量と測定(1)ア		

(2) 次に、長方形の中にいろいろな四角形をかいて、ひし形と同じように、いつでも長方形の面積の半分になるのかどうかを調べます。

図1から図3のように、四角形の中に直角三角形をつくり、面積が等しい直角三角形にそれぞれ○や△などの印をつけます。

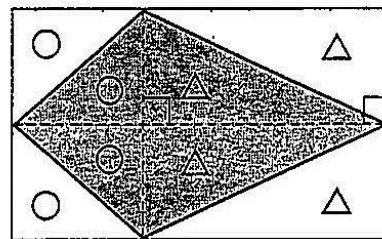


図1

調査対象は第6学年ですが、問題の内容は全学年。学校全体で取り組む意識を高めます。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（7）

補充学習のポイント 「学力向上月間」を設定した計画的な取組

G小学校の事例

年度 学力向上アクションプラン

() 学校

本年度の課題			自らの考えをもち、積極的に交流し合おうとする力に個人差が大きい。学力の男女差や個人差もはっきりと見られる。			本年度の目標			自らの考えをもち、自信をもって表現できる子どもの育成をめざし、国語科を中心とした言語活動の充実を図る。共通実践を積み重ねる。			具体的目標		
「確かな学力」の定着														
1	熊本型授業の質の向上		熊本型授業のチェックシート活用		講師招聘（理論の確立）	「菊池の風」参加		講師招聘（言語活動の充実）	学力充実研究発表会		講師招聘（授業力向上）		評価・反省	
2	校内研修の充実		校内研修（全国：結果分析）	校内研修（学力の基礎基本）			校内研修（ようチャレンジの問題を解く）				研究論文提出		研究の総括	
3	教科による一人1回以上の研究授業				大研 5-2 大研 2-1 大研 1-3 大研 6-2	大研 4-1	理科専科研究授業	中研 1-2 2-3 3-1 3-2 4-2 5-3 6-3	研究発表会 1-1 2-2 3-3 4-3 5-2 6-1	算数少人数指導研究授業	音楽専科研究授業	特別支援学級研究授業		
4	学力の的確な把握と分析		校内研修実施把握（学年会→全体会）				全国学力の分析				ようチャレンジの分析	NRT（標準学力）実施	学校総体としての分析	
5	目標の明確化と言語活動の設定		年間指導計画に言語活動を位置づけ、内容を明記する。	話す・聞くくぐんタイムの実践	集会活動での位置づけ 校内統書月間	アンケート実施	校内の言語環境の整備		校内統書月間					
6	ようチャレンジ等を活用した学習活動の充実				単元別評価問題の取組				単元別評価問題の取組					
7	指導と評価の一体化		評価基準表の作成・確認	評価基準表の活用		児童一人一人の進歩の状況把握	個別指導の充実			学期末評価		個別指導の充実	年度末評価	
8	家庭学習の習慣化			家庭学習の手引き配付	家庭学習定着月間		夏季休業中の補充学習		家庭学習強化月間				家庭学習強化月間	
9	小中連携による学力向上の取組				小中連絡会	相互授業参観	合同校内研修	町学力向上対策会議				町学力向上対策会議	小中連絡会相互授業参観	
10	熊本版CSの活用、基礎学力向上システムの充実		募集・計画	第1回	第2回 学力向上月間	第3回		第4回	第5回	第6回 学力向上月間	ようチャレンジ	第7回	第8回 ステップアップ週間	第9回・まとめ
実態			学習全国状況調査											
月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	p 10

全国学力・学習状況調査、県学力調査の課題を踏まえて、過去問題に取り組む期間を年3回設けています。課題に合わせた集中的な取組で、課題を克服します。

2 学力向上に向けた特色ある取組事例（8）

家庭学習改善のポイント 「自学タイム」で、家庭学習の見通しをもたせる。

H 中学校の取組

「自学タイム」では

「自学タイム」では、帰りの会の前の10分間、その日の家庭学習の計画を立て、「自主学習ノートの使い方」を参考に、その日に学習した5教科の復習を始めます。続きは家庭学習となります。

「自学タイム」の効果

- 家庭での学習がスムーズになります。
- その日に学習した内容を必ず復習するので、基礎学力の向上にもつながります。
- 授業と家庭学習をリンクさせた学習習慣が確立されます。

自主学習ノートの使い方（初級編）

【内 容】 その日、授業であった教科の復習をする。（下記のノートは5教科すべてであった日の例）
 定期テストの後には、テストのやり直しにも取り組もう。

日付と勉強時間を書こう！

Date 1 / 20 / (金) 20:00～20:40 No. _____

 国語 英語 数学 理科 社会

勉強を始める前に、教科名を書いておこう！

（英語）英単語を覚えよう！ ・ good good good . . . (よい) ・ soccer soccer soccer . . . (サッカー) 何回も書いて覚えよう！	（国語）新出漢字を覚えよう！ ・ 円滑に進む 円滑に進む ・ 丈夫な体 丈夫な体 ・ 冒険をする 冒険をする
（数学）教科書 例題 ① $4 \times 6 + 5$ ② $7 - 2 \times 4$ $= 24 + 5$ $= 5 \times 4$ $= 29$ $= 20$ 《やりなおし》 $7 - 2 \times 4$ $= 7 - 8$ $= -1$ 必ずやり直しをしよう！	（理科）重要語句をまとめよう！ 光合成…植物が光のエネルギーで、水と二酸化炭素からデンプンと酸素を取り出すはたらき 重要語句を整理してまとめよう！
（社会）江戸時代の重要語句を書こう 武家諸法度 武家諸法度 武家諸法度 武家諸法度 武家諸法度 何回も書いて覚えよう！	

自主学習ノートの使い方

「自学タイム」(帰りの会の前10分間)で、生徒はその日の授業を振り返り、家庭学習の計画を立てて復習を始めます。その日の家庭学習につなぐ大切な時間です。

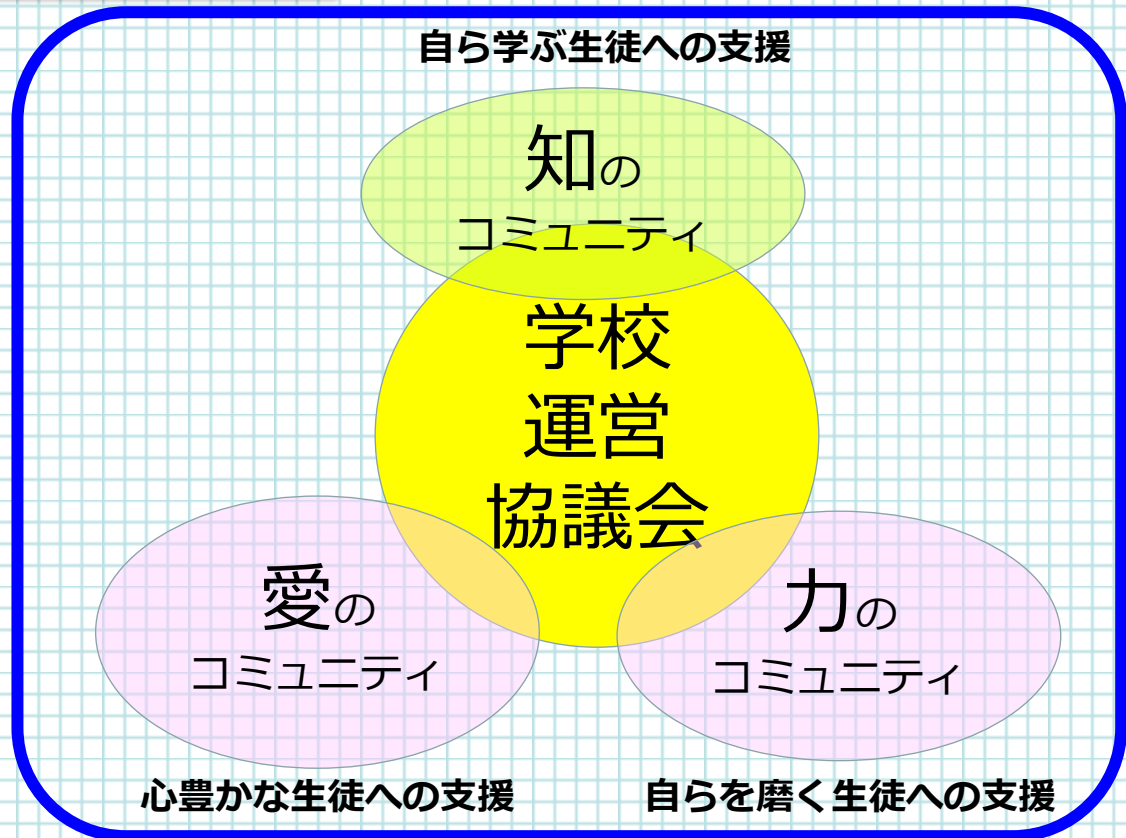
2 学力向上に向けた特色ある取組事例（9）

学校全体としての改善のポイント

コミュニティ・スクールの推進を通じた学力充実

I中学校の取組

研究の組織



「知のコミュニティ」の活動

- ・ 4月 高校生による講話
- ・ 6月 世界で活躍する
地域の人の講話
- ・ 7月 着付け教室
- ・ 8月 サマースクール
- ・ 9月 自由研究まとめ
- ・ 10月 英語暗唱支援
- ・ 11月 栽培協力支援
- ・ 12月 短歌作成支援
- ・ 1月 習字支援
- ・ 2月 放課後学習会
- ・ 3月 放課後学習会

地域と共にある学校づくりを進め、地域住民の協力のもと、生徒の学力向上につなげています。

3 学力向上に向けた特色ある取組事例（まとめ）

学力向上に向けた特色ある取組を行っている学校の共通点

- 全国学力・学習状況調査結果の分析が早々に行われ、分析に基づいた課題解決計画が明確に示され、全職員で組織的に実践されています。
- 宿題の確認が確実に行われ、個別指導に生かされています。
- 学校全体で学び方が統一されており、児童・生徒の共通理解のもと、学習に取り組んでいます。
- 校長先生方が、校内の授業をよく見て回ったり、先生方が互いの授業を参観したりしています。

好事例として紹介する学校は、これらの点が共通しています。